

教育データのさらなる利活用の促進について考える

2026年3月10日(火) 13:00 ~ 17:30

日本学術会議 第26期
記者会見(令和8年2月27日)
資料3-2

京都大学学術情報メディアセンター南館2階 マルチメディア講義室201

主催：日本学術会議 情報学・心理学・教育学委員会合同教育データ利活用分科会

共催：京都大学学術情報メディアセンター 緒方研究室

一般社団法人 エビデンス駆動型教育研究協議会

一般参加の可否：可（参加費無料）参加をご希望の方は、以下のアドレスより参加登録をお願いいたします。

参加申し込みURL: <https://forms.gle/cp4Dc2kirMCKsqNHA>

登録締切：2026年3月9日（月）



日本学術会議教育データ利活用分科会では、「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言」を2020年9月末に公表しました。本シンポジウムでは、教育データ利活用（ラーニングアナリティクス）に関連する政策関係者ならびに研究者をお招きして、新型コロナウイルスの影響やGIGAスクール構想の進展、AI技術などのその後の社会の変化に伴い、教育データの利活用が促進したと、そうではないと、さらに注意して進める必要があることなど、教育データのさらなる利活用に向けた課題や今後の方向性について議論します。

申し込みはこちら

プログラム

趣旨説明

- 13:00 「教育データの利活用に関する見解と今後の展望について」
緒方 広明（日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター 教授）

基調講演

- 13:30 「教育DXのためのデータ利活用に向けた文部科学省の取組」
伊藤 賢（文部科学省 初等中等教育局 教育改革調整官／教育DX推進室長）
14:00 「教育DXに向けたデジタル庁の取組と今後の方向性」
久芳 全晴（デジタル庁国民向けサービスグループ企画官（教育班担当））
14:30 休憩

データ活用事例の紹介

- 14:45 「初等教育における教育データと生成AIの利活用の教員継続調査について」
楠見 孝（日本学術会議連携会員、京都大学国際高等教育院副教育院長・特定教授、名誉教授）
15:00 「教育データ利活用におけるELSI（倫理的・法的・社会的課題）と教育現場での対応アプローチ」
村上 正行（大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部 教授／スチューデント・ライフサイクルサポートセンター センター長）
15:15 「生涯を通じた教育データの利活用」
江村 克己（日本学術会議連携会員、福島国際研究教育機構（F-REI）理事）
15:30 「高等教育におけるデータと生成AIの活用」
島田 敬士（日本学術会議連携会員（特任）、九州大学大学院システム情報科学研究院 教授）
15:45 「教員養成系大学における教育データの利活用に向けた取組」
阪東 哲也（鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授／教師のためのAI・DS研究開発センタープロジェクト管理室長）
16:00 「特別支援教育でのデータ利活用について」
豊川 裕子（京都大学学術情報メディアセンター 特定研究員）
16:15 休憩

パネル討論 「テーマ：教育データの利活用の将来について考える」

- 16:30 司会：緒方 広明（日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター 教授）
<パネリスト>
本シンポジウム登壇者
伊藤 賢（文部科学省初等中等教育局 教育改革調整官／教育DX推進室長）
久芳 全晴（デジタル庁国民向けサービスグループ企画官（教育班担当））
<指定討論者>
相原 玲二（日本学術会議連携会員、広島大学 上席特任学術研究員／安田女子大学理工学部 教授）
椿 美智子（日本学術会議連携会員、東京理科大学経営学部経営学科・大学院経営学研究科 教授／東京理科大学理事）
谷口 倫一郎（日本学術会議連携会員、九州大学 名誉教授）
17:30 閉会の挨拶
美濃 導彦（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人理化学研究所情報統合本部ガーディアンロボットプロジェクトディレクター／京都情報大学院大学副学長）

公開シンポジウム

響き合ういのち

—種をこえて共に生きる生物たちの新しい世界—

15:15—15:20 はじめに

吉永 直子 (日本学術会議連携会員/京都大学大学院農学研究科助教)

15:20—15:45 「レジリエンス微生物学：微生物叢に共通する機能の理解に向けて」

大坪 和香子 (東北大学大学院農学研究科助教)

座長：熊谷 日登美 (日本学術会議連携会員/日本大学生物資源科学部特任教授)

15:45—16:15 「イルカと共生細菌が織りなす進化の物語 ～培養が拓いた共生の新世界～」

瀬川 太雄 (日本大学生物資源科学部助教)

座長：林 由佳子 (京都大学大学院農学研究科教授)

16:15—16:45 「Braarudosphaera bigelowii 複合種群に観察される種内多様性」

萩野 恭子 (高知大学海洋コア総合研究センター国際研究所)

座長：大田 ゆかり (麻布大学生命・環境科学部教授)

16:45—17:15 「微生物の代謝能から紐解く根圏植物微生物超個体」

杉山 暁史 (京都大学生存圏研究所准教授)

座長：吉永 直子 (日本学術会議連携会員/京都大学大学院農学研究科助教)

17:15—17:40 「敵の敵を味方につける—植物と昆虫の高度な防衛戦略」

吉永 直子 (日本学術会議連携会員/京都大学大学院農学研究科助教)

座長：裏出 令子 (京都大学複合原子力科学研究所研究員)

17:40—17:45 おわりに

大田 ゆかり (麻布大学生命・環境科学部教授)

参加費無料

事前申込不要

2026年

3/11



同志社大学

良心館C2会場

主催：日本学術会議農芸化学分科会 共催：公益社団法人 日本農芸化学会
お問い合わせ：吉永 直子 yoshinaga.naoko.ev@gmail.com

医科学知は 誰のものか？

— 医科学による管理と
〈生の自己決定〉をめぐる対話 —

2026年

3月14日 **土**参加
無料

14:30 ▶▶ 18:00

オンライン開催

一般の方も参加できます

申込はこちらから▶

データでご覧の方は、二次元コードを
クリックまたはタップでアクセスできます。

19世紀以降、医科学の知識は、国家が国民の健康を管理する「バイオポリティクス」の道具として機能する一方、市民が自らの生を営むための「コモン・ナレッジ」としても捉えられてきました。誰が、何のためにこの知を生産・利用し、共有すべきなのか。この問いに普遍的な答えはありませんが、現代はまさに、その知の社会的循環のあり方をめぐる根源的な問いが突きつけられている時代と言えるでしょう。

本シンポジウムでは、医科学知の所有と利用をめぐる現状から、そのあり方を多角的に問い直します。アメリカの「バイオシチズンシップ (biocitizenship)」、フランスの「医療民主主義」、そして日本の学校教育における「医療的ケア」。異なる背景を持つ3つの事例をもとに、医科学知をめぐる統治と抵抗、権利と責任、専門性と公共性といった錯綜する力学を解き明かしながら、管理と自己決定の狭間で揺れる現代の「生」のあり方と、未来への展望をともに議論します。

プログラム

- 14:30 ● **開会の挨拶** 中村 征樹 (日本学術会議第一部会員／大阪大学全学教育推進機構教授)
- 司会 三時 眞貴子 (日本学術会議連携会員／広島大学大学院人間社会科学研究科准教授)
- 14:40 ● 『**医科学知の所有と利用をめぐるバイオシチズンシップ**』
堀内 進之介 (立教大学文学部特任准教授)
- 15:10 ● 『**フランスにおける医療に関する参加型民主主義の課題**』
建石 真公子 (日本学術会議連携会員／法政大学名誉教授)
- 15:40 ● 『**日本における医療的ケア児の教育支援**』
河合 隆平 (東京都立大学人文社会学部准教授)
- 16:30 ● **コメント** 加藤 和人 (日本学術会議第二部会員／大阪大学大学院医学系研究科教授)
- コメント** 熊谷 晋一郎 (日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター教授)
- コメント** 高橋 博子 (日本学術会議連携会員／奈良大学文学部教授)
- 総合討論**
- 18:00 ● **閉会の挨拶** 河野 銀子 (日本学術会議連携会員／九州大学男女共同参画推進室教授)

主催：日本学術会議史学委員会・哲学委員会合同科学技術・学術の政策に関する歴史的・理論的・社会的検討分科会

共催：科学研究費学術変革領域 (A)「尊厳学の確立：尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて」

(領域代表 加藤泰史) B01班「各国憲法や生命倫理法等の比較に基づく尊厳概念の法的分析」(班代表 建石真公子)

科学の推進による、一人一人のwell-beingの達成

国立心理科学研究所構想 の推進

2026年

3月16日(月)13:00~16:10

人の心を理解し、一人一人がよりよく生きる(well-being)社会を実現するためには、心の共通性と多様性を科学的に捉えることが重要です。近年、遺伝子研究の進展により、人に共通する身体のしくみや個人差の理解が進んできましたが、心の働きについては、研究成果が分野ごとに分かれて蓄積されているのが現状です。こうした知見を統合し、長期的・計画的にデータを集めることで、人の心を体系的に理解し、社会課題の解決につなげることが求められています。

本シンポジウムでは、「一人一人のwell-beingの達成」を目指す国立心理科学研究所構想について議論します。

司会 **川合伸幸** (名古屋大学※2)

13:00~ **挨拶と企画趣旨説明**

坂田省吾 (新潟医療福祉大学※1)

13:10~ **心理科学研究所構想の概要説明**

齋木潤 (京都大学※2)

14:10~ **東北メディカル・メガバンク計画とデータ利活用の概要**

泉陽子 (東北大学東北メディカル・メガバンク機構)

14:45~15:00 休憩

15:00~ **志向性と未来の前線ー現代のフロンティア**

入来篤史 (帝京大学先端総合研究機構※2)

15:30~ **一人一人のwell-beingの達成のためには**

片桐恵子 (神戸大学ウェルビーイング先端研究センター)

16:00~ **閉会挨拶**

綾部早穂 (筑波大学※2)

※1 日本学術会議第一部会員 ※2 日本学術会議連携会員

オンライン参加の方はこちら(⇒)から
3月15日までにお申込みください。
会場参加の方はお申込み不要です。



<https://forms.gle/57KtvRYC9TAVTx2dA>

会場: 日本学術会議講堂
(港区六本木7-22-34)

半導体テクノロジーは ウェルビーイングを 向上させられるのか？

心理学的アプローチによる心の開放

2026

3.17 [Tue.] 13:30-18:00

参加費
無料

東京科学大学 大岡山キャンパス WL 1_201 (西講義棟1)

オンライン配信有



<https://meeting.jsap.or.jp/opensymposium>

主催：日本学術会議 電気電子工学委員会 デバイス・電子機器工学分科会
共催：一般社団法人 応用物理学会

PROGRAM

司会 13:30 - 16:40 藤島 実 | 広島大学大学院先進理工系科学研究科

13:30 - 13:35 はじめに

大橋 弘美 | 古河電気工業株式会社

13:35 - 13:40 趣旨説明

森 勇介 | 大阪大学大学院工学研究科

13:40 - 14:20 招待講演

ウェルビーイングの観点から
本シンポジウムに期待すること

鈴木 寛 | 東京大学公共政策大学院/慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

14:20 - 14:50 招待講演

より良いウェルビーイングへの
心理学的アプローチ
心痛い記憶の解消法

根岸 和政 | 大阪大学大学院工学研究科

14:50 - 15:10 招待講演

心理的アプローチがひらいた
異分野連携の扉
—境界領域研究をスムーズにする心のメカニズム—
丸山 美帆子 | 大阪大学大学院工学研究科

15:10 - 15:20 休憩

15:20 - 15:40 招待講演

無意識のブレーキに気づいた
その先にあった、より生きやすい日常

佐々木 恵梨 | 日東電工株式会社

15:40 - 16:10 招待講演

センシングによるカウンセリングの
状態定量化の試み

丸山 博 | パナソニック ホールディングス株式会社

16:10 - 16:40 招待講演

ウェルビーイングの向上に向けた共感空間

伊藤 隆文 | 株式会社デンソー

16:40 - 16:55 休憩

司会 16:55 - 18:00 森 勇介 | 大阪大学大学院工学研究科

16:55 - 17:55 パネル討論

鈴木 寛 | 東京大学公共政策大学院/慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
根岸 和政 | 大阪大学大学院工学研究科
丸山 美帆子 | 大阪大学大学院工学研究科
佐々木 恵梨 | 日東電工株式会社
丸山 博 | パナソニック ホールディングス株式会社
伊藤 隆文 | 株式会社デンソー

17:55 - 18:00 シンポジウム総括

藤島 実 | 広島大学大学院先進理工系科学研究科

公開シンポジウム
「教育改革と可視化ー生成 AI による教育改革」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会
2. 共 催：大阪成蹊大学
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和8（2026）年3月19日（木）14：00～17：00
5. 場 所：大阪成蹊大学駅前キャンパスこみちホール（大阪府大阪市東淀川区相川1丁目3-7）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
本シンポジウムは、第1～3回公開シンポジウムでの議論を総括し、教育改革における可視化の価値と方向性を示す「見解（素案）」を提示し、参加者から広くフィードバックを得ることを目的とする。特に、個人差（ワーキングメモリ差）を踏まえたウェルビーイングの保障、協働学習における取り残され感の可視化、生成 AI による LOD (Level of Detail) 調整、WBI (Well-Being Indicators) 整備の必要性など、2025 年以降の教育政策に向けた核心論点を扱う。
9. 次 第：
 - ・ 総合司会
水井 賢文（株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部本社営業部本社営業室主幹）
 - ・ 開会挨拶および趣旨説明（5分）
小山田 耕二（日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部長／教授）
 - ・ 基調講演（90分）
「ウェルビーイングと包摂性から読み解く教育改革：AI 活用がもたらす新しい高等教育像」
山田 礼子（日本学術会議連携会員／同志社大学社会学部教授）

・ パネル討論 (60 分)

タイトル: 「可視化が導く教育改革の未来—個人差・ウェルビーイング・AI 活用をめぐって」

パネリスト (予定) :

- 小山田 耕二 (日本学術会議連携会員／大阪成蹊大学データサイエンス学部長／教授)
- 筑本 知子 (日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授)
- 志村 祐康 (国立研究開発法人産業技術総合研究所エネルギー・環境領域再生可能エネルギー研究センター主任研究員)
- 林 宏樹 (雲雀丘学園中学校・高等学校教員)
- 服部 翔大 (横河デジタル株式会社 DX/IT コンサルティング事業本部マネージャー)
- 水井 賢文 (株式会社富士テクニカルリサーチ営業本部本社営業部本社営業室主幹)
- 巳波 弘佳 (関西学院大学副学長／教授)
- 山辺 真幸 (一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科特任講師)

・ 全体討論・質疑応答 (20 分)

・ 閉会挨拶 (5 分)

筑本 知子 (日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所附属マトリクス共創推進センターセンター長／教授)

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

産官学で推進する地域創生： ブルーカーボンがもたらす可能性

2026年早春(振替開催)

3月21日(土)

陸前高田市コミュニティホール&オンライン

13時30分開会、17時30分閉会

事前申込：<https://forms.gle/kdrGVQkXqzAgdfMt7>



参加費無料。ハイブリッド形式です。オンライン参加の方は事前申込が必要です。
(前回申し込まれた方も再度お申し込みください。)
会場参加の方は事前申込がなくても会場に直接お越し頂けます。

主催：
日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、
食料科学委員会水産学分科会

共催：
岩手県陸前高田市

後援：
日本農学アカデミー、公益財団法人農学会、公益社団法人日本水産学会、復興農学会
福島大学、東京大学大学院農学生命科学研究科

総司会 関谷 直也 (東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授、日本学術会議連携会員)

開会挨拶 中嶋 康博 (女子栄養大学栄養学部教授、日本学術会議会員)

第一部

13:40~

地域創生と カーボンニュートラル

基調講演：

「復興から現在までの振り返りと未来への展望」

佐々木 拓 (陸前高田市長)

「民間企業による持続可能な地域創生」

前田 充穂

(弓ヶ浜水産株式会社取締役)

「海藻養殖による地域創生を目指した研究推進と産業実装」

佐藤 陽一

(理研食品(株)取締役 原料事業部長)

第二部

15:10~

ブルーカーボンの 科学

「海草・海藻藻場による二酸化炭素貯留機能とコベネフィット」

堀 正和

(水産研究・教育機構沿岸生態系暖流域グループ長、日本学術会議連携会員)

「広田湾における海草類等がもたらす炭素貯留量」

松政 正俊

(岩手医科大学教養教育センター教授)

「バイオミネラリゼーションと炭素循環」

鈴木 道生

(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

第三部

16:40~

産官学で盛り上げる 地域創生

パネルディスカッション

モデレーター：

八木 信行

(東京大学大学院農学生命科学研究科教授、日本学術会議連携会員)

パネリスト：

アリーン・デレーニ

(東北大学東北アジア研究センター教授)

小山 良太

(福島大学食農学類教授、日本学術会議連携会員)

東海 正

(東京海洋大学名誉教授、日本学術会議連携会員)

閉会挨拶 大越 和加 (東北大学大学院農学研究科教授、日本学術会議会員)

お問い合わせ

<https://forms.gle/PbYkNPGuhzfBzvJy7>



日本学術会議 公開シンポジウム
第96回日本衛生学会学術総会 市民公開講座

環境化学物質の健康影響、 その理解と健康をまもる生活環境の維持に向けて 2. 曝露測定一何をどのように測定するか

日時

令和8年
(2026年)

3/21^土 15:40-17:40

会場

栃木県総合文化センター
ホール棟 サブホール
(〒320-8530 栃木県宇都宮市本町1-8)

●アクセス

JR宇都宮線 JR宇都宮駅(西口)下車 バスで「県庁前」下車
徒歩で約3分
東武宇都宮線 東武宇都宮駅から徒歩10分
ホームページはこちら <https://www.sobun-tochigi.jp/access.html> ▶



プログラム

座長: 中村 桂子* (東京科学大学)、野原 恵子* (国立研究開発法人国立環境研究所)

15:40 開会挨拶

中村 桂子* (東京科学大学・日本学術会議環境リスク分科会委員長)

15:45-17:20 講演

1. 中島 大介 (国立研究開発法人国立環境研究所・環境リスク・健康領域)

「環境中化学物質の複合曝露の包括的な計測に向けて」(15:45-)

2. 平 久美子 (東京女子医科大学附属足立医療センター麻酔科)

「環境医学のインテリジェンス
—ネオニコチノイドと化学物質過敏症」(16:10-)

3. 上島 通浩 (名古屋市立大学・大学院医学研究科・環境労働衛生学分野)

「健康リスク評価のための個体曝露量測定」(16:35-)

4. 上田 佳代* (北海道大学・大学院医学研究院・衛生学教室)

「大気汚染物質と気温との相乗的な健康影響」(17:00-)

17:20-17:35 総合討論

17:35 閉会挨拶

小橋 元 (獨協医科大学・第96回日本衛生医学会学術総会大会長)

17:40 閉会

*日本学術会議連携会員

環境中に放出される化学物質は人間活動の増大に伴って増加し、その中にはヒトや生態系に悪影響を及ぼす可能性をもつものもあります。環境化学物質の悪影響から将来にわたって人類の健康を守るためには多岐にわたる研究が必要です。本公開講座では、環境化学物質の曝露評価に関する研究を議論します。

入場無料

どなたでもご参加いただけます。

参加方法 現地参加のみ

(会場に直接お越しください)

お問い合わせ

第96回日本衛生学会学術総会大会事務局
TEL: 0282-87-2133 (直通)
E-mail: jsh96@dokkyomed.ac.jp

主催 日本学術会議 環境学委員会・健康・生活科学委員会合同 環境リスク分科会、一般社団法人日本衛生学会、厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)「種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割解明とQOL向上、社会啓発を目指した領域統合多施設共同疫学研究」班

後援 国立医薬品食品衛生研究所、国立研究開発法人国立環境研究所、一般社団法人日本環境化学会、一般社団法人日本公衆衛生学会、一般社団法人室内環境学会、一般社団法人日本毒性学会、一般社団法人日本DOHaD学会、日本内分泌攪乱物質学会、日本免疫毒性学会、日本臨床環境医学会



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



[総合司会] 三尾裕子 (日本学術会議第一部会員、慶応義塾大学名誉教授)
[開会の挨拶] 大串和雄 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

第1セッション 女性の政治参画を進めるための 制度改革と環境整備について

[報告]

三浦まり (日本学術会議連携会員、上智大学教授)
武田宏子 (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院法学研究科教授)
糠塚康江 (日本学術会議連携会員、東北大学名誉教授)

[コメント]

中川正春 (政治分野における女性の参画と活躍を推進する議員連盟元会長)
山崎摩耶 (クオータ制を推進する会)
西川有理子 (パリテ・アカデミー)
能條桃子 (FIFTYS PROJECT)
濱田真里 (Stand by Women)

第2セッション 政党と国会におけるさらなる改革に向けて (国会議員によるパネル・ディスカッション)

[登壇者]

※各政党から国会議員が登壇します。



[モデレーター] 三浦まり

[閉会の挨拶] 島岡まな (日本学術会議第一部会員、大阪大学教授)

議会と政党は何をすべきか

日本では意思決定における女性の参画が著しく少なく、この改善が喫緊の課題となっている。特に立法に携わる政治分野において男女比が均等になることは、経済、社会、教育、研究など他の分野の女性参画を進めるためにも重要な課題である。日本学術会議では、改善策を講じる責任主体としてとりわけ重要である政党と議会に焦点を当て、どのような方策を採ることが効果的なのかを検討し、「見解 女性の政治参画を進めるための制度改革と環境整備について」を2025年11月17日に発出した。本シンポジウムでは、「見解」の内容を報告し、国会・政党関係者および市民とともに議論を深める。

[日時] 2026年 **3月22日(日)** 13:30~16:30 **〈参加無料〉**

[会場] 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34)

[申込] 会場参加は不要です。オンライン視聴 (Zoom Webinar) には事前登録が必要です。
下のリンクまたはQRコードから申し込んでください。

https://sophia-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_B-X35dGbQzyRUjo1Bo2uYw

[問い合わせ先] paritypolitics2026@gmail.com

[主催] 日本学術会議政治学委員会民主主義の深化と退行に関する比較政治分科会、
法学委員会ジェンダー法分科会、第一部総合ジェンダー分科会

[後援] 内閣府男女共同参画局

[協力] 科研費 (24K04726、代表:三浦まり)

ハイブリッド開催



福祉の価値と

イノベーションの創発による

福祉システムの共創

多様性と地域共生への展望

【開催趣旨】

人口減少・少子高齢化の進展に伴い、福祉・介護人材の不足とともに、社会的孤立・孤独やひきこもりなど、旧来の福祉システムでは対応困難な課題が増大している。

一方、情報通信技術、人工知能（AI）、人間拡張技術等のテクノロジーの発展は、人と人のつながり方を含め、私たちの生活や社会全体のあり様を変容させている。これらのテクノロジーの活用により、生活機能やコミュニケーションの障壁を軽減・除去し、多様な生活ニーズをもつ人々の生活の質やウェルビーイングを高めることが期待されている。

しかしながら、他方で先端的テクノロジーが、時として当事者を置き去りにし、新たな差別や排除を生み出すといった、多様性、包摂、共生といった「福祉の価値」との不整合が生じうる危険性も指摘されている。本シンポジウムでは、福祉の価値と、新たな視点や仕組みによって社会を変えるイノベーションの創発的関係をふまえ、多様な人々との地域での共生を図る福祉システム共創の可能性と課題について議論する。

13:00- 開会挨拶及び趣旨説明

和氣 純子

日本学術会議第一部会員／東京都立大学大学院人文科学研究科教授

第一部 報告

司会 木下 武徳

日本学術会議連携会員／立教大学コミュニティ福祉学部教授

13:10- 「当事者の声が生み出すイノベーション」

熊谷 晋一郎

日本学術会議第二部会員／東京大学先端科学技術研究センター当事者研究分野教授

13:30- 「ロボット・IoTを介した相互承認の場とシステムの共創」

志村 健一

東洋大学福祉社会デザイン学部長・福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授・福祉社会開発研究センター長

13:50- 「ソーシャルワークにおけるジェンダー・センシティビティ」

横山 登志子

札幌学院大学人間科学部人間科学科教授

14:10- 「外国人介護労働者の受け入れと多文化共生」

大和 三重

日本学術会議連携会員／関西学院大学名誉教授

14:30- 「縦割り型福祉システムを超えて：制度横断的ガバナンスと共創によるイノベーション」

永田 祐

日本学術会議連携会員／同志社大学社会学部社会福祉学科教授

休憩(10分)

第二部 コメント・討論

15:00- コメント

山野 則子

日本学術会議連携会員／

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科教授／

日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長

15:10- 討論

15:55- 閉会挨拶

金子 光一

日本学術会議連携会員／

東洋大学常務理事・福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授・東洋大学いのち総合研究機構副機構長／

日本社会福祉系学会連合会長

2026/3/28 土

13:00 - 16:00 参加費：無料

オンライン開催
要事前予約(QRコード)

お問合せ



cdws@toyo.jp



主催 日本学術会議社会学委員会、価値とイノベーションの創発による福祉システム検討分科会

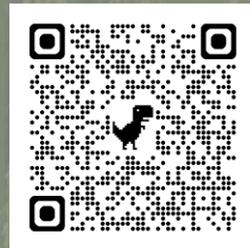
共催 日本社会福祉系学会連合、東洋大学いのち総合研究機構

後援 社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人日本社会福祉士会、公益社団法人日本精神保健福祉士協会

公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟

主催：日本学術会議農学委員会農学分科会
共催：(一社)日本作物学会、(一社)園芸学会
後援：日本農学アカデミー

近年、日本では気候変動に伴う激甚な気象災害が農業の持続可能性に深刻な影響を及ぼしている。政府は2050年の炭素中立を掲げ、農業分野にも緩和策の強化を求めているが、従来は適応策中心で緩和策は不十分であった。農業はメタンや亜酸化窒素など強力な温室効果ガスを広域的に排出する特性を有する。このような農業特有の状況を踏まえ、本シンポジウムは、生産農学の視点から緩和策に焦点を当て、食料安定供給と環境負荷低減を両立する技術への転換を促すことを目的とする。



<https://forms.gle/rLz4mjAK1DZAVha4A>

日時：2026年3月28日(土)14:30～17:00

場所：高崎健康福祉大学(群馬県高崎市中大類町)

3号館101講義室&オンライン(一般参加歓迎)

対面・オンラインとも、参加申し込みは右上のQRコードから

日本学術会議公開シンポジウム 気候変動を食い止める農業生産技術 — 今、我々に何ができるか —

プログラム：

◇総合司会 彦坂 晶子(日本学術会議連携会員/千葉大学大学院園芸学研究院教授)

シンポジウムの開催にあたって(主催者代表挨拶)

土井 元章(日本学術会議第二部会員/京都大学名誉教授)

『農業生産の持続可能性の課題と気候変動』

本間 香貴(日本学術会議連携会員/東北大学大学院農学研究科教授)

『水田における窒素および炭素動態とその制御

—カバークロップや不耕起を利用したメタン排出量削減—』

浅木 直美(愛媛大学大学院農学研究科准教授)

『環境変化と土壌・根圏微生物相互作用』

竹下 典男(筑波大学生命環境系准教授)

『気候変動に伴う野菜生産の作型適応』

山崎 篤(高崎健康福祉大学農学部教授)

『農業生産におけるカーボンクレジット』

西田 智子(日本学術会議連携会員/(国研)農研機構理事)

シンポジウム総括 下野 裕之(日本学術会議連携会員/岩手大学農学部教授)

お問い合わせ：2026nougaku.sympo@gmail.com